

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 11 月 22 日 (2007.11.22)

【公表番号】特表 2007-513138 (P2007-513138A)

【公表日】平成 19 年 5 月 24 日 (2007.5.24)

【年通号数】公開・登録公報 2007-019

【出願番号】特願 2006-542034 (P2006-542034)

【国際特許分類】

A 6 1 K 39/106 (2006.01)

A 6 1 K 39/116 (2006.01)

A 6 1 K 39/295 (2006.01)

A 6 1 P 1/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

A 6 1 P 31/12 (2006.01)

A 6 1 P 33/02 (2006.01)

A 6 1 P 37/04 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 39/106

A 6 1 K 39/116

A 6 1 K 39/295

A 6 1 P 1/00 1 7 1

A 6 1 P 31/04 1 7 1

A 6 1 P 31/12 1 7 1

A 6 1 P 33/02 1 7 1

A 6 1 P 37/04

C 1 2 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 10 月 4 日 (2007.10.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

孵卵の最終四半期の間に、カンピロバクター種の生きた細胞の免疫化有効量を卵内投与することを含み、トリにおいてカンピロバクターに対する免疫応答を誘発する方法。

【請求項 2】

前記トリが家禽である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記家禽が、以下の：ニワトリ、七面鳥、及びアヒルから成る群から選ばれる、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記投与において使用されるカンピロバクターの前記種が、以下の：C.ジェジュニ、C.コリ、及びC.ラリから成る群から選ばれる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

孵卵の最終四半期の間に、1 種以上のカンピロバクター種の生きた細胞の免疫化有効量を

卵内投与することを含む、トリにおいてカンピロバクターに対する免疫応答を誘発する方法。

【請求項 6】

前記生きた細胞が野生型であるか、又は遺伝的に改変されている、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

異種性ポリヌクレオチド配列がカンピロバクターの前記生きた細胞中に導入されている、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

前記異種性ポリヌクレオチド配列が、家禽におけるカンピロバクターによるコロニー形成に必須のタンパク質をコードする、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】

前記異種性ポリヌクレオチド配列が、家禽において病気を引き起こすウイルス、細菌、又は寄生生物からの抗原をコードする、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 10】

前記異種性ポリヌクレオチド配列が、食品由来の病気をヒトにおいて引き起こす生物体からの抗原をコードする、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 11】

前記異種性ポリヌクレオチド配列が、家禽の成長又は飼料効率を促進するタンパク質をコードする、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 12】

前記異種性ポリヌクレオチド配列が、トリの免疫系を刺激するタンパク質をコードする、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 13】

さらに、獣医学的に許容可能な担体を投与することを含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 14】

前記獣医学的に許容可能な担体が、卵内投与の前にカンピロバクターの生きた細胞と併合される、請求項 13 に記載の方法。

【請求項 15】

前記獣医学的に許容可能な担体が、飼料又は水中で、或いはエアロゾルスプレーによって、孵化後のいずれかの時に上記トリに投与される、請求項 13 に記載の方法。

【請求項 16】

前記獣医学的に許容可能な担体がアジュバントである、請求項 14 に記載の方法。

【請求項 17】

前記アジュバントが免疫刺激活性を有する、請求項 16 に記載の方法。

【請求項 18】

カンピロバクターの生きた細胞が、以下の：ウイルス、細菌、又は原虫免疫原から選ばれる少なくとも 1 つの他の免疫原と併合される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 19】

前記獣医学的に許容可能な担体がアジュバントである、請求項 15 に記載の方法。

【請求項 20】

前記アジュバントが免疫刺激活性を有する、請求項 19 に記載の方法。